

2022年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年1月14日

上場会社名 株式会社 AFC-HD アムスライフサイエンス
 コード番号 2927 URL https://www.ams-life.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 浅山 雄彦
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役会長室長 (氏名) 南方 茂穂 TEL 054-281-5238
 四半期報告書提出予定日 2022年1月14日
 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(百万円未満切捨て)

1. 2022年8月期第1四半期の連結業績(2021年9月1日~2021年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年8月期第1四半期	5,454	-	166	-	316	-	156	-
2021年8月期第1四半期	4,637	20.3	558	113.6	557	114.2	375	132.6

(注1) 包括利益 2022年8月期第1四半期 121百万円(△67.6%) 2021年8月期第1四半期 375百万円(100.9%)

(注2) 今期より、新収益認識基準を適用しております。

売上高及び利益面において影響が生じるため、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

なお、従来の会計基準の場合の売上高は、8,000百万円(対前年同四半期比172.5%)であります。

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年8月期第1四半期	11.04	10.97
2021年8月期第1四半期	26.91	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年8月期第1四半期	36,094	12,571	32.4
2021年8月期	35,752	12,660	33.1

(参考) 自己資本 2022年8月期第1四半期 11,706百万円 2021年8月期 11,827百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年8月期	-	12.50	-	15.00	27.50
2022年8月期	-				
2022年8月期(予想)		15.00	-	15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2022年8月期の連結業績予想(2021年9月1日~2022年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
通期	20,000	-	1,500	-	1,500	-	1,000	-	71.44

(注1) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 有

(注2) 連結子会社を含め今期より通期において新収益認識基準にて算出しなければならないところを、先般の公表では、連結子会社さいか屋のみ同社の新基準適用期間を用い2021年9月~2022年2月の6ヶ月間を従来基準にて算出しておりましたので、売上高予想を訂正いたします。

※注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ①会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
 - ②①以外の会計方針の変更：無
 - ③会計上の見積りの変更：無
 - ④修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年8月期1Q	14,387,699株	2021年8月期	14,387,699株
② 期末自己株式数	2022年8月期1Q	391,894株	2021年8月期	196,594株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年8月期1Q	14,149,432株	2021年8月期1Q	13,953,224株

※四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信の添付資料4ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、新業態への進出による経営の多角化と自社グループ内に様々な業態を持つことにより、自社グループ内で全てを完結する複合企業体を目指しております。昨年5月26日に株式会社さいか屋を、昨年6月1日に株式会社なすびを連結子会社化いたしました。また、昨年3月30日に株式会社エーエフシー不動産を、昨年10月1日に株式会社AFC建設を新設いたしました。

業績につきましては、連結子会社が増加したことに加え、医薬品事業の売上高が前年同期を上回る結果となり、連結売上高は5,454百万円となりました。一方、損益面につきましては、新たに加わった連結子会社の業績は新型コロナウイルス感染症による影響を受けており、営業損失となったことから、営業利益は166百万円、経常利益は316百万円、親会社株主に帰属する四半期利益は156百万円となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(ヘルスケア事業)

・OEM部門

ダイエットに結び付く訴求ができる機能性表示食品が堅調に推移いたしました。また、運動不足解消等の健康意識の高まりにより、関節や筋肉に関する商材の受注も堅調に推移いたしました。一方、誇大広告等への規制強化を背景に、広告出稿を控える顧客からの受注が鈍化したこと等が響き、当部門は苦戦いたしました。学術部門と連携を取り、機能性表示食品の届出支援を含む提案営業、製品開発を一層強化してまいります。

・自社製品販売部門

通信販売の広告や販売促進活動の見直しを行ったことにより、受注が増加しました。また、越境ECにおいては「中国の独身の日」商戦での受注が伸長いたしました。海外販売は既存顧客における美容商材の受注が好調を維持しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大によるロックダウンが販売促進活動に影響しております。イスラム圏での売上拡大を図るためハラール認証取得の準備を進めております。店舗販売においては、感染防止対策を講じたうえで催事や相談会等を実施しましたが、緊急事態宣言発令に伴う臨時休業や外出自粛による来客数の減少等が影響しております。その結果、当部門は前年同期並みとなりました。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高3,955百万円、営業利益550百万円となりました。

(医薬品事業)

医薬品市場は、大別して医師の処方箋に基づき病院・診療所、調剤薬局で購入する医療用医薬品市場と、医師の処方箋が要らず、ドラッグストアで購入する一般用医薬品市場に分けられます。

医療用医薬品につきましては、重点販売製品として位置付けている自社製造、医療用ジェネリック医薬品『ピムロ顆粒』（下剤）、生活習慣改善薬のジェネリック医薬品『シルデナフィル錠』『フィナステリド錠』『タダラフィル錠』が順調に売上を伸ばしたほか、一般用医薬品のOEM受注が増加した影響が加わり、利益面において安定的に黒字が出せる体制となりました。

以上の結果、医薬品事業の業績は、売上高が420百万円（前年同期比112.0%）、営業利益35百万円（前年同期比162.8%）となりました。

(百貨店事業)

当期より、㈱さいか屋(証券コード:8254)の第1四半期売上高954百万円を取り込んでおります。従来の会計基準では3,498百万円(前年同期比85.0%)に相当します。

昨年5月26日、㈱さいか屋株式の過半数(議決権の所有割合50.36%)を取得し連結子会社化いたしました。横須賀店はコロナワクチン接種会場として利用頂いており、入店客数増が継続、ワクチン接種を受けられた方限定の特別サービスが好評を得ています。また、10月20日、横須賀店にカラオケ・ダーツ・eスポーツのフロア「娯楽の殿堂 さいか屋eSTAGE」、美と健康ショップ「サロン・ド・AFC」を新規オープンし、お客様に喜ばれる百貨店になるよう積極的に先行投資を続けております。また、連結子会社化したことによるのれん914百万円が重くのしかかっております。

以上の結果、百貨店事業の業績は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、売上高が954百万円、営業損失117百万円となりました。

(飲食事業)

昨年6月1日、㈱なすび株式100%を取得し連結子会社化いたしました。緊急事態宣言の発令を受け、休業を余儀なくされました。また、10月上旬に近江牛焼肉レストラン「すだく」、10月下旬に回転寿司店「一富士丸」を新規出店し、先行投資しております。また、連結子会社化したことによるのれん615百万円が重くのしかかっております。

以上の結果、飲食事業の業績は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、売上高が123百万円、営業損失139百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ470百万円増加し、16,322百万円となりました。この増加要因は主として、商品及び製品が112百万円、原材料及び貯蔵品が110百万円減少した反面、受取手形及び売掛金が342百万円、現金及び預金が325百万円増加したことによるものであります。

(固定資産)

当第1四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ127百万円減少し、19,772百万円となりました。この減少要因は主として、のれんの償却等により無形固定資産が50百万円減少したことに加え、投資その他の資産のその他が42百万円、減価償却等により有形固定資産が34百万円減少したことによるものであります。

(流動負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ187百万円増加し、11,989百万円となりました。この増加要因は主として、商品回収損失引当金が633百万円、商品券が555百万円、未払法人税等が496百万円、流動負債のその他が498百万円減少した反面、契約負債が1,486百万円、短期借入金が735百万円、支払手形及び買掛金が172百万円増加したことによるものであります。

(固定負債)

当第1四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ244百万円増加し、11,534百万円となりました。この増加要因は主として、長期借入金が209百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ89百万円減少し、12,571百万円となりました。この減少要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により、利益剰余金が113百万円増加した反面、自己株買付により、純資産の部の控除科目である自己株式が200百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、連結子会社を含め今期より通期において新収益認識基準にて算出しなければならないところを、先般の公表では、連結子会社さいか屋のみ同社の新基準適用期間を用い2021年9月～2022年2月の6ヶ月間を従来基準にて算出しておりましたので、売上高予想を訂正いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,222,136	9,547,680
受取手形及び売掛金	2,244,682	2,587,367
商品及び製品	1,637,968	1,525,255
仕掛品	853,393	838,895
原材料及び貯蔵品	1,360,068	1,249,793
その他	594,534	634,431
貸倒引当金	△60,386	△60,778
流動資産合計	15,852,396	16,322,646
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,634,576	5,618,470
土地	9,333,625	9,333,625
その他(純額)	1,043,449	1,024,632
有形固定資産合計	16,011,651	15,976,729
無形固定資産		
のれん	1,491,664	1,453,416
その他	160,964	148,818
無形固定資産合計	1,652,628	1,602,234
投資その他の資産		
その他	2,255,121	2,212,768
貸倒引当金	△19,395	△19,385
投資その他の資産合計	2,235,726	2,193,383
固定資産合計	19,900,007	19,772,347
資産合計	35,752,403	36,094,994
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,966,799	3,139,794
短期借入金	4,989,624	5,725,453
未払法人税等	646,464	150,329
商品券	555,410	—
賞与引当金	196,726	234,938
商品券回収損失引当金	633,609	—
ポイント引当金	63,235	—
契約負債	—	1,486,867
その他	1,750,422	1,252,049
流動負債合計	11,802,291	11,989,432
固定負債		
長期借入金	9,691,252	9,900,424
役員退職慰労引当金	201,449	209,180
退職給付に係る負債	773,571	788,988
その他	622,922	635,455
固定負債合計	11,289,195	11,534,048
負債合計	23,091,486	23,523,481

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,131,839	2,131,839
資本剰余金	2,438,494	2,438,494
利益剰余金	7,420,777	7,534,374
自己株式	△141,364	△342,171
株主資本合計	11,849,746	11,762,537
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△46,937	△85,592
為替換算調整勘定	7,701	12,750
退職給付に係る調整累計額	16,855	16,388
その他の包括利益累計額合計	△22,380	△56,453
新株予約権	90,138	120,184
非支配株主持分	743,413	745,245
純資産合計	12,660,917	12,571,512
負債純資産合計	35,752,403	36,094,994

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2020年9月1日 至2020年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2021年11月30日)
売上高	4,637,135	5,454,291
売上原価	3,199,104	3,395,843
売上総利益	1,438,031	2,058,447
販売費及び一般管理費	879,431	1,892,429
営業利益	558,599	166,018
営業外収益		
受取利息	235	923
受取配当金	1,581	2,097
投資有価証券売却益	3,824	1,305
受取賃貸料	4,567	10,099
負ののれん償却額	140	—
助成金収入	—	159,566
その他	2,290	8,579
営業外収益合計	12,639	182,571
営業外費用		
支払利息	7,659	16,763
投資有価証券売却損	3	5,113
その他	5,659	10,161
営業外費用合計	13,322	32,038
経常利益	557,916	316,551
特別利益		
固定資産売却益	—	176
特別利益合計	—	176
特別損失		
固定資産除却損	90	823
投資有価証券評価損	14,345	—
減損損失	365	—
役員退職慰労金	—	8,346
その他	—	6,415
特別損失合計	14,800	15,584
税金等調整前四半期純利益	543,115	301,143
法人税、住民税及び事業税	174,918	142,546
法人税等調整額	△7,294	2,552
法人税等合計	167,623	145,098
四半期純利益	375,491	156,045
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△168
親会社株主に帰属する四半期純利益	375,491	156,213

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年9月1日 至 2020年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年9月1日 至 2021年11月30日)
四半期純利益	375,491	156,045
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,565	△38,655
為替換算調整勘定	2,689	5,048
退職給付に係る調整額	△649	△466
その他の包括利益合計	474	△34,073
四半期包括利益	375,966	121,972
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	375,966	122,140
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△168

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2020年9月1日 至 2020年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	4,261,937	375,198	4,637,135
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	4,261,937	375,198	4,637,135
セグメント利益	664,436	21,512	685,948

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	685,948
全社費用(注)	△127,348
四半期連結損益計算書の営業利益	558,599

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
重要性が乏しいため、記載を省略しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2021年9月1日 至 2021年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	百貨店事業	飲食事業	
売上高					
外部顧客への売上高	3,955,931	420,363	954,291	123,704	5,454,291
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,955,931	420,363	954,291	123,704	5,454,291
セグメント利益又は損失(△)	550,864	35,011	△117,939	△139,793	328,142

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	328,142
全社費用(注)	△162,124
四半期連結損益計算書の営業利益	166,018

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理の方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べ、当第1四半期連結累計期間の「ヘルスケア事業」の売上高及びセグメント利益は2百万円減少し、「百貨店事業」の売上高は2,544百万円の減少、セグメント損失は48百万円増加しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。